

図書館だより

R4年度 第2号 5月13日発行

GW
楽しめましたか？

ゴールデンウィークが明け、通常通りの学校生活が始まりましたね！連休明けは疲れが出やすいですが、そんなときこそお昼休みは図書館でゆっくり静かに過ごし
ながら、本を読んでほしいです。

2022 本屋大賞

4月に本屋大賞が発表されました。
本屋さんがお勧めしたい本がこちらです！

大賞

「同志少女よ、敵を撃て」

逢坂冬馬

1942年、独ソ戦、モスクワ近郊の村に住む狩りの名手セラフィマの暮らしは、突如奪われる。同じ境遇で家族を喪い、戦うことを選んだ女性狙撃兵たちとともに訓練を重ねたセラフィマは、やがて独ソ戦の決定的な転換点となるスターリンググラードの前線へと向かう。

第2位

「赤と青とエスキース」

青山美智子

メルボルンの若手画家が描いた1枚の「絵画（エスキース）」。日本へ渡って30数年、その絵画は「ふたり」の間に奇跡を紡いでいく——。2度読み必至！ 仕掛けに満ちた傑作連作短篇。

第3位

「スモールワールズ」一穂ミチ

夫婦円満を装う主婦と、家庭に恵まれない少年。「秘密」を抱えて出戻ってきた姉とふたたび暮らす高校生の弟。初孫の誕生に喜ぶ祖母と娘家族。人知れず手紙を交わしつつける男と女。向き合うことができなかつた父と子。大切なことを言えないまま別れてしまった先輩と後輩。誰かの悲しみに寄り添いながら、愛おしい喜怒哀楽を描き尽くす連作集。

第4位

「正欲」 朝井リョウ

あってはならない感情なんて、この世にない。それはつまり、いてはいけない人間なんて、この世にいないということだ——共感を呼ぶ傑作か？ 目を背けたくなる問題作か？ 絶望から始まる痛快。あなたの想像力の外側に行く、作家生活10周年記念、気迫の書下ろし長篇小説。

第5位

「六人の嘘つきな大学生」
朝倉秋成
成長著しいIT企業「スピラリンクス」の最終選考。最終に残った六人が内定に相応しい者を議論する中、六通の封筒が発見される。そこには六人それぞれの「罪」が告発されていた。犯人は誰か...究極の心理戦がスタート！

第6位

「夜が明ける」
西加奈子
思春期から33歳になるまでの男同士の友情と成長、そして変わりゆく日々を生きる奇跡。まだ光は見えない。それでも僕たちは、夜明けを求めて歩き出す。どれだけ傷ついても、夜が深くても、必ず明日はやってくる。

第7位

「残月記」 小田雅久仁
近未来の日本、悪名高き独裁政治下。世を震撼させている感染症「月昂」に冒された男の宿命と、その傍らでひっそりと生きる女との一途な愛を描ききった表題作ほか、二作収録。「月」をモチーフに、著者の底知れぬ想像力が構築した異世界。足を踏み入れたら最後、イメージの渦に飲み込まれ、もう現実には戻れない――。

第8位

「硝子の塔の殺人」知念実希人
ミステリを愛する大富豪の呼びかけで、刑事、霊能力者、小説家、料理人など、癖のあるゲストたちが館へ招かれた。この館で次々と惨劇が起こる。館の主人が毒殺され、ダイニングでは火事が起き血塗れの遺体が。さらに、血文字で記された十三年前の事件。謎を追うのは名探偵・碧月夜と医師・一条遊馬。散りばめられた伏線、読者への挑戦状、そして、驚愕のラスト。

第9位

「黒牢城」 米沢穂信
本能寺の変より四年前、天正六年の冬。織田信長に叛旗を翻して有岡城に立て籠った荒木村重は、城内で起きる難事件に翻弄される。動揺する人心を落ち着かせるため、村重は、土牢の囚人にして織田方の軍師・黒田官兵衛に謎を解くよう求めた。事件の裏には何が潜むのか。戦と推理の果てに村重は、官兵衛は何を企む。

第10位

「星を掬う」 町田そのこ
千鶴が夫から逃げるために向かった「さざめきハイツ」には、自分を捨てた母・聖子がいた。他の同居人は、娘に捨てられた彩子と、聖子を「母」と呼び慕う恵真。「普通」の母娘の関係を築けなかった四人の共同生活は、思わぬ気づきと変化を迎え――。

本屋大賞の本は、図書館にはまだありませんが、希望があれば注文できます！

5月16日に「図書館に入れてほしい本」のアンケートをくばります。できる限りみんなのリクエストにこたえるので、どしどし書いてほしいにゃん♪

